

長野地区特別支援学校再編整備計画（案）に対するパブリックコメントについて

5月6日までのパブリックコメントに多くの方が声を届けていただき、ありがとうございました。それについての、県からの回答をお知らせしたいと思います。（ろう学校関係部分）

パブリックコメント	回 答
世界的な潮流となっているインクルーシブ教育の理念を掲げ、幼児期～高校まで含めた長野県の障害児教育をどのように描いていくのかを示すことが必要だと思います。それがないまま、長野ろう学校の改築を急がなくてはならない状況になり、地域化の観点から離れた発想で、長野ろう学校に長野養護学校の小学部の一部をつけたり、盲学校に長野養護学校の高等部の一部を持っていくことしたり、その場しのぎの対応と言わざるを得ません。今後、早急に研究者、現場教師、保護者、関係団体で、障害児教育全体のグランドデザインを作り、全県的な再編整備計画を策定して欲しい。	本計画は、新しい特別支援学校の方向性を踏まえ、示しているものと考えております。特別支援教育のあり方については、今後も検討の場を設け、引き続き検討してまいります。
学校などで説明会を重ねて、関係者からの理解は本当に得られたのでしょうか。多くの方に疑問 や不安が残っているのが現状です。	再編整備計画（案）の方向性については、ご理解いただいたものと考えております。今後も引き続きご意見を伺ってまいります。
様々障害を受け入れることが専門性の維持向上につながるのか。複数の障害種に対応できる特別 支援学校の方向は慎重に検討すべきではないか。	ご意見の主旨を踏まえ今後の検討に活かしてまいります。
特別支援学校の基本的な考え方とは、必ず複数障害種に対応した特別支援学校にするものではないのではないか。	一人一人の教育的ニーズに応じた教育が推進できる、新しい学校づくりに取り組んでまいります。
「長野ろう学校」の校名は残してください。	「長野ろう学校」の名称で、聴覚障害校としての設置を計画しております。
三輪校舎は併設で設置してください。教職員の兼務などは行わないでください。	三輪校舎は「併設」として計画しております。教員組織は別編成になります。
人数のバランスを考慮し、養護学校の児童数は30名程度としてください。	三輪校舎の児童生徒数は、30名程度と考えております。
寄宿舍を学校の敷地内に建設してください。少人数の部屋でプライバシーの守れるものとして欲しい。	長野ろう学校の改築に合わせ、校地に設置を予定しております。構造等の意見につきましては、今後の検討に活かしてまいります。
同窓会館を敷地内に残してください。	同窓会館につきましては、今後同窓会とともに検討を行ってまいります。
早急な改築を。現在の校舎では安全の保障はない。	1日も早く校舎と改築が行えるよう、取り組んでまいります。
視界の良いろう学校に。字幕、パトライトなども。	聴覚障害のある児童、生徒にとって、情報の保障は大切と考えております。ご意見の主旨を踏まえ、学校建築に活かしてまいります。
専門性を有した教員配置を行って欲しい。年数だけの異動は行わないで欲しい。	特別支援教育にとって、専門性は非常に重要であり、適正な人事異動に努めてまいります。

ろう学校の専門性を維持するようにしてください。	ろう学校の専門性の維持向上につきましては、引き続き取り組んでまいります。
三輪学園について	三輪学園につきましては、運営主体である長野市社会事業協会と長野市との間で、検討いただいている状況です。
保護者、PTA、関係者等の意見も取り入れて欲しい。学校の状況を知らない人達だけで話を進めないこと。	関係者との理解と協力を得て、進めることを基本の方針としております。
<ul style="list-style-type: none"> ・長野ろう学校と三輪校舎の共有スペースを極力少なくして欲しい。別棟になるように ・バリアフリーにし、ゆとりのある建物に。校庭も広く。 ・最新設備を導入するなど、学校施設を充実させてください。 ・聴力検査室の充実、個別指導質の確保。教室の防音。 ・部活動を行えるスペースの確保。 ・東北信の聴覚障害教育の拠点としてふさわしい施設設備を。 ・三輪周辺住民の理解を得て工事が一日も早く始められるように。 ・県外のろう学校も参考に、使い勝手の良い建物に。 ・職員室は、ろう、養護、別々に設置してほしい。 ・内装、設備にお金をかけて欲しい。 ・言語聴覚士、作業療法士などの専門家を配置して欲しい。 ・就労に活かせる資格取得が可能な教育課程の検討をしていただきたい。 ・高等部の教育課程は、新校舎の前に新しくしても良いのでは。 ・障害はあっても将来に希望が持てる学校づくりをして欲しい。レベルの高い教育が受けられるろう学校として、教員配置、設備の充実をお願いします。 ・意見の集約には時間がない。もう少し時間をかけて、みんなが納得いく改築にして欲しい。耐震性が不足しているため、早急に改築は必要だが、建物が望まないものになってしまっても困る。 ・「ろう文化」を理解し、ぜひ守ってください。 ・早期教育の充実。 ・体育館などを地域の社会の場として活用できるように。 ・必要数の職員配置を。 ・障害があっても健常の子どもと同じ教育を受ける権利はある。それを妨げるような環境にしないで欲しい。(専門的施設の設置など) ・「お金をかけずに」と言われていましたが、必要なものにお金をかけて、良い学校を作ってください。お金がないからと言って、必要な部分が見落とされないように。 ・「準ずる教育」に従った教育課程編成を確立し、他の障害と一緒にあって、曖昧にしない。他の障害を受け止め、受け入れることも大事だが、条件整備もする。教育的に何が必要なのか。 ・子ども達が愛着を持てる学校に。 ・20年近く通う学校なので、卒業生の要望も聞いて欲しい。 ・建築の方々や地域の人達にもろう教育を理解してもらおう場を設けて欲しい。 ・音響、採光に配慮した校舎に。 ・情報の保障を大事にした設備。 	ご意見の主旨を踏まえ、今後の検討に活かしてまいります。
特別支援学校の児童、生徒、保護者の要望を集約する手だてを県は全く取っていない。一体誰のための再編をしようとしているのか。声を聞いて希望の持てる学校を作りたい。	実施にあたっては、関係者と懇談や意見交換を行って、十分な理解を得て進めることを基本としております。
特別支援教育課長が変わりましたが、約束したことは引き継ぐように。	県の方針に変更はありません。

等の回答がされました。詳細については、教育委員会のホームページでご覧いただけるので、そちらをご覧ください。

また、「障害種別で分けて、子ども達が学校に合わせるのではなく、子どもたちの学びに学校や教育の現場があわせていく柔軟さがあるといいのではないかと。今回の再編計画の中に併置ではなく、併設として進んでいる部分が今後どうなっていくのか、限られた敷地でそこまで分けることの意味はどこにあるのでしょうか。一緒になったら、どんな授業展開が可能なのか、新しい長野県モデルとした授業を作れるのではないかと、多くの夢を語っていただけないでしょうか。」と言うコメントもあり、「ご意見の主旨を踏まえ、今後の検討に活かしてまいります。」との回答でしたが、ろう学校関係者以外の人達に、ろう教育について理解を広げていく必要性もとてもあるのではないのでしょうか。

来週14日(木)には、長養、課との研究会が開かれます。今後ご意見等ありましたら、遠慮なく連絡をいただければと思います。